

拝啓 今年も早や2月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。私の住んでいる港北ニュータウンには、散歩するのに格好の長い緑道があります。先日ささぶねの道を山の会の友人と一緒に散歩しましたら、途中で河津桜をまとまって植えている所があり、2月というのにピンクの桜が満開だったのには驚きました。

今回は、小西芳之助先生の『わが主イエスよ—恵心流キリスト教・説教集—』の15回目で最終回ですが、中国の善導大師（613-680）、日本の源信（942-1017）、源空（1133-1212）から学んだ点が掲げられています。結局これらの仏教の祖師方が、称名という単純な方法によって、仏教の教えを体得されたように、キリスト教も、同じ称名の方法によってイエスの教えを身に受けるというのは、分かりやすい教えであると思います。

4ページ、「妄念のうちより称名せよ」の項には、次のように書かれています。

「恵心僧都は、『横川法語』。「妄念のうちより称名せよ」という文句。妄念というのは、信仰がない。信仰がないままで称名せよ、これで浄土に生まれる、と言った。それから恵心僧都で、もう一つ、『我々は極楽に行くまで妄念の凡夫』と言った。向こうの国に行った時に初めて覚りの心になると言った。これが源信から学んだ点。」とありますが、我々は確かに、いくら年を取りましても、最後まで妄念の凡夫であることは認めざるを得ません。その中で、称名せよとの勧めです。

来月からは、佐生健光さんの『キリスト教と称名』より引用いたしたいと思います。

1月30日、本誌読者の佐藤昭夫さん達と共に、毎年新年に行っている山中湖平野の石割山に行きました。一日中改正で素晴らしい登山を経験することができました。ふもとにある石割の湯が、木曜日で休みだったのですが、連絡バスで山中湖の反対側にある村営の別の温泉紅富士の湯に行き、富士山への落日を見ながら温泉を楽しむことができました。ただ、同行の予定だった二木博江さんがその2日前、新宿駅で倒れ、入院され参加できなかったことは残念でありました。

未整理の写真数年分をアルバムに整理しました。写真は、アルバムに整理をしている時が、いろいろなことを思い出して、一番楽しい時かもしれません。

2月20日は、10人ほどで、ほほえみプラザという老人施設に行って、童謡を歌ってきました。その後、寺門文雄さんと二人で、いつものように新宿の歌声喫茶「ともしび」へ行きました。いつもより空いていて、いろいろな歌が歌えました。特にシューベルトの菩提樹を、男性6、7人で歌いましたが、非常に声のきれいな方がいて愉快でした。

コロナ・ウイルスが、段々広く全国で増えてきており、毎日心配しながら、テレビ報道を見ています。あまり過剰に反応して、活動を控えることはよくないと思いますが、立てていた予定はどうしても実施するという考えは改め、柔軟に対応しなければと思います。

梅の花があちこちに咲いて、これからは温かい日も増えて、もうすぐ春ですが、皆さまも、お身体ご自愛され、お過ごしくださいますように。

2月24日

山口周三

エンカウンターの読者各位